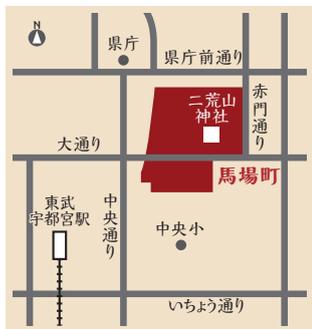




◀昭和30年ごろの様子(個人蔵)



この付近は、古くから二荒山神社の門前町として開けたところで、馬場先(乗ってきた馬を止める所)であったことから、この町名が付いたといわれます。馬場町は二荒山神社との縁が深く、第一番神祇町という大変名譽な役割を担っており、祭礼の際には町内から護衛の役員を何人も出せていましたが、現在では住民が少なく、十分な役割を果たせていないのが残念です。

そんな馬場町ですが、かつては仲見世や映画館があり、「宮さ行くべし」や「泣く子も笑うバンボラ」という言葉が生まれるほど人々が集い、宇都宮一・二を争うにぎわいを見せていました。音楽バンドの演奏会では、演奏中止になるほどたくさんの人が集まりました。また、町内を周回する競歩大会では、市民の他、自衛隊の参加もありました。今以上に、まちなかで行われるイベントの注目は高かったのだからと思います。

現在も、商業のまちとして各店舗とも工夫を凝らして営業していますが、各店主同士の絆が深まり、商店街一丸となった、活気ある馬場町を取り戻していきたいと思っています。



古いまちの呼び名とこぼれ話を紹介します



馬場町自治会 会長 福上 孝仁さん

はつらつ宮っこ

今、輝いている市民

諦めないことが大事
夢は世界へ

レーシングドライバー 山本 尚貴さん



「うれしさと同時に周りの期待に応えられた安堵感がありました」と話すレーシングドライバーの山本尚貴さん。昨年11月に行われた日本最高峰の自動車レース、「スーパーフォーミュラ」最終第7戦(2レース)で1位と3位を獲得し、見事、シリーズチャンピオンに輝きました。「自分一人の頑張りでは勝てない世界。チームを始め、たくさんの方のサポート、そして結果を出せない時でも支え続けてくれたファンの皆さん、みんなで勝ち取ったチャンピオンです」と振り返ります。

や思いを乗せて走ることが魅力」と笑顔の山本さん。日々のレースについて、「うまくいかないことが多いですが、どれだけ諦めないでできるかが大事です」と力強く話します。また、「モータースポーツから多くのことを学びました。その経験が少しでも役立てば」と、子どもたちにモータースポーツを通して人間力の大切さを伝える活動も行っています。

平成23年には宇都宮愉快市民にも就任した山本さん。「いい時も悪いときも温かく見守ってください」と宇都宮市民の皆さんに感謝しています。市民の意地を見せ、今後は世界で戦える選手になりたいです」と、たくさんの方の思いを乗せて世界を目指します。

